

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700472		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホームこのは 1F		
所在地	河東郡音更町新通20丁目1-1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月30

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0194700472-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・食事は全て手作りにしている。
- ・毎日入浴できるようになっており、週に最低4回は入浴できるようになっている。
- ・建物が新しく、居住空間が広い。
- ・一つの建物に二つのユニットがあるのでお互いに対応できるようになっている。
- ・温泉一泊旅行等家族と交流できる機会がたくさんある。
- ・利用料金が安い。
- ・介護職員の年齢が若い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

帯広市都心部から約5kmに位置し、周囲に大型商業施設が集積した利便性に富む新興地域に、平成26年3月に開設した2ユニットの事業所である。広い居間には組み合わせを変えられるテーブルや、いくつかのソファ、日向ぼっこに最適なウッドデッキが置かれ、利用者の表情は明るく、会話をしたり、気に入った場所で思い思いに過ごしている。又、看取り時など家族が宿泊利用できる予備室がある。散歩時には近所の庭を見せてもらって挨拶を交わしたり、清掃活動などの地域行事に参加して交流し、地域住民に事業所行事への参加を呼びかけたり、ボランティアが来訪して交流している。又、介護実習の短大生を受け入れて介護現場を経験してもらうなど地域密着に力を入れている。その結果、近所から野菜を差し入れてもらえるような関係が出来てきた。運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、議題となったサービス内容や災害対策の改善につなげている。若く元気な職員が多く、利用者から教わることもあり、家族の継続的な来訪も多く、利用者職員は和気あいあいと暮らしている。開設からまだ1年であるが、家族や地域の協力を得ながら、サービス向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、玄関や事務所に掲示し共有できるようになっている。	理念「人間としての尊厳を失わずに暮らしていけるようなケアを提供する」を、玄関や事務所の見やすい所に掲げて職員で共有している。開設一年を経て、実践できてきている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し廃品回収や清掃活動に積極的に参加し、交流しているほかホームの行事への参加を促している。ボランティアの方に協力していただいている。	町内会へ加入して、資源回収や町内清掃活動に参加している。地域住民にホームの行事への参加を積極的に促して、成果が上がってきている。地域のボランティアの来訪もある。	運営推進会議や町内会の協力を得て、地域住民に対して認知症、介護の仕方などに関する情報を発信して、多くの地域住民の理解と協力を得られるようになることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や民生委員の方の訪問により、ホーム内の見学を行ったり、相談を受けるなどしているが、ほとんど取り組めていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度行っており、実際のサービス内容の報告や改善点を話し合うほか災害対策についても意見をいただいている。	役場職員、町内会、民生委員、有識者、家族、利用者などが参加して、年間6回開催している。出席率が良く、現状報告などをして、意見を交わし、サービス向上に活かしている。議事録に発言の詳細を記録している。出席者は事業所事業へ積極的に参加している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問を行い、交流する機会を設けている。町からの依頼や講習会には積極的に参加し、サービス向上に努めている。	音更町の介護相談員を積極的に事業所に受け入れて、要望や苦情を聞き取ってもらい、家族関係の調整や、指摘を受けてのサービス改善に繋げている。町主催の講習会に参加して情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。研修への参加や勉強会の開催を行っているが不十分である。	法人が4つの事業所を統括して身体拘束の内部・外部の研修を推進している。身体拘束は行わず、徘徊には見守りに対応している。徘徊が生じた場合は、迷わず徘徊SOSネットワークに連絡して、地域住民・行政の力を借りることを職員間で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加し、虐待防止に努めている。契約の際には必ず重要事項説明書を渡し、十分に説明を行っている。不安や疑問がある場合は対応し、理解・納得の上で契約している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に講習会に参加し、制度について理解している職員もいるが全員理解しているわけではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時や契約時に時間をかけて十分に説明を行い、理解・納得に努めている。本人が苦情や不満を言いやすく働きかけ、言い表せない方に対しては思いを組みとるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の番号を重要事項説明書に記載しているほか、ホームの掲示板に掲示している。家族代表や入居者代表として運営推進会議に参加していただき意見を促すようにしている。	意見や苦情をサービス向上の絶好の機会と捉えて感謝している。例えば、部屋の異臭の指摘に、配管ミスを発見して補修。また、来訪時の駐車場不足の苦情に、早速隣接地を取得して対応した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。	スタッフと管理者間で普段から気軽な意思交換が行われている。年一回職員との個人面談を実施、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談により把握し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の回覧をしており、職員の状況にあった研修に参加できる機会を設けている。若い職員が多いので、今後職員への基礎研修を推進して全体の「質的レベルアップ」を図りたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、研修会等に参加するなど機会はある。今後は管理者だけではなく職員が地域の同業者と交流ができるように機会を増やしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞きその都度対応するようにしている。会話の中から求めていることを受け取り、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の不安や困っていることは事前面接によりよく話をきき対応している。入居後は相談があった場合は丁寧に対応するよう努め、手紙などで意見を求めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほかのサービスもすすめ、入居できる・できないを見極め、プランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しながら雑談や料理、昔話等を楽しみ、喜怒哀楽をともにしている。人生の先輩である入居者さんに教えていただいたりする場面を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には会話をし、行事への参加の声掛けを行うことにより関係を築いている。月に一度の手紙や、電話などで本人の生活を細かく報告し、よりよい関係の継続に努めている。また、家族が宿泊できる部屋も準備している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容室の継続利用、他施設への訪問等を支援、今までの関係が途切れないように努めている。遠方から来られたご家族には宿泊用の部屋に泊まっていたりなど、なじみの人との関係が途切れないように支援している。	遠方の家族が泊まれるように予備室を設けたり、配偶者が他の施設に入居している利用者の訪問を同行して支援している。利用者の墓参りや、馴染みの理美容室に通えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな人はレクリエーションやお茶の時間等を利用し、職員がさりげなく他の方との関係づくりができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方にはお見舞いに行き、家族の方に近況を聞くなど関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔で接し、相談にのり日々のかかわりの中で言葉や表情からくみ取るように努めている。意思疎通が困難な場合は普段のかかわりで得たことや、家族から得た情報を会議などで共有している。	日常のかかわりの中から、思いや希望をくみ取るように心がけている。家族ともう一度旅行したいという思いを聞きとって、家族も同行参加する温泉宿泊旅行を実現させた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前だけではなく小さなことでも家族から情報を教えていただいたりと、協力してもらっている。事前面接により環境を整えケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面接により一人一人の生活環境や精神状態、病歴等を把握し、職員で情報を共有するようにしている。日々の状態はモニタリングや申し送り等で把握し記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族からの情報を会議等で話し合い、プランを立ててケアを行っている。	基本の4ヶ月毎に拘らず、担当者が変化に気がついたらユニットリーダーに申告する。ユニットリーダーは例え担当者が気がつかなくても日々の介護記録により変化を観察してケアマネージャーと看護師との協議を経て次の会議にかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り等で情報を共有し、記録の把握や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望した場合は外泊や外出をしている。町外の受診は基本家族対応だが、家族が対応できない場合はホームで対応したり、利用者・家族が安心していただけるよう一緒に付き添い、必要な支援が出来るように柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアの協力を得たり、運営推進会議の開催を行っている。抜き打ちの避難訓練を行って、消防の方や地域の方にアドバイスをいただくなど協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関の医師が月に一度訪問診察を行っている。家族が希望する医療機関への受診も支援しており、日ごろの様子を記入した手紙を書き、情報を提供している。	かかりつけ医を大事にして、町内通院時は職員が同行している。新しい医療機関や町外への受診は家族同行が基本で、情報提供をして協力している。家族が対応できない場合には職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携により入居者の健康管理や体調に合わせて対応し、また、受診対応がスムーズに行えるようにしている。職員として看護師を確保しているため職員への指導を行うことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は精神的なダメージを減らすために毎日お見舞いに行き、状況を聞くように努めている。早期に退院できるように病院関係者と話し合い早期退院を依頼している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	学習会や勉強会を開催しているがほとんど取り組めていないが本人や家族の意向をふまえ、医師やスタッフが連携を密にして安心した最後を迎えられるように家族と話し合うなど準備をしている。	契約時に利用者、家族に終末期の方針や事業所の出来ることを説明して理解を得ている。開業からは浅いが、今後医師と職員が連携して、家族・利用者が終末期に対する不安を取り除けるように、学習会を行いながら体制構築に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練を実施している。非常事態に備えて水は準備しているが物品(かんぱん等)の準備は行っていない。救命法などの講習を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を仰ぎ、年2回の避難訓練を実施している。	年2回、内1回を夜間想定として避難訓練を実施、消防署の指導を受けて運営推進会議参加者や地域の方々の参加も得ている。訓練で、職員の緊急召集を15分以内全員集合を達成できた。今後、備蓄品を年々充実させていく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの配慮について職員はその場に合った対応を心掛けているが十分ではない。メモや個人情報シュレッダーにかけて処分している。	幼児ことば・過度の敬語・馴れ馴れしさ等の言葉づかいを職員同士で注意し合い、利用者と話すときは腰を屈める等目線に気をつけている。トイレの誘導や入浴の時などでプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を第一に考え、自己決定を促すよう短い質問や簡単な選択ができるように努めている。自己決定が困難な方は表情を読み取り何を欲しているのか探るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や外出時等に対応できるように努めているが難しい。受診時等に対応できない場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の介助は行うが基本的に身だしなみは本人に任せている。理美容はなじみの人をお願いしたり、外出が困難な方は訪問理美容サービスを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が希望したものや季節の食材をメニューに取り入れて、食事が楽しみになるように配慮している。その人の力に応じて味付けなど準備や片づけ等の協力をさせていただいている。	食事はすべて手づくりで、旬の食材を使って季節感を感じてもらおう。食事は楽しみであり、絶好の参加の機会と考えて、片付け、皮むき等を行って貰っている。誕生日に好みの外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量の記録を行っており、足りない場合はその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄剤で義歯のケアや、うがいなどを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のしぐさや様子を観察し、さりげないトイレ誘導を行っている。一人一人の排泄リズムの把握に努め、入居時に紙パンツを使用しているも綿パンツへの変更を支援している。	一人ひとりの排泄パターンやしぐさや様子を観察し、さりげないトイレ誘導を行ってトイレでの自立排泄を支援している。細かな対応で、全員が綿パンツが使用できることを目指している。トイレ誘導失敗もあるが迅速・丁寧に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニュー会議でバランスを確認し、運動の支援を行い、便秘の予防に努めている。チェック表により、排便や水分量を記録し、不足している場合はその都度対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理に入浴に誘うことはしていない。檜風呂で、最低週4回の入浴ができるように努めているほか、地域の入浴施設へ誘ったりしている。	入浴は重要な楽しみ事と考えて、週4回は入浴できるよう配慮している。ヒノキの匂いがする浴槽で、職員と歌を歌ったりして、楽しく入浴している。近く健康センターの温泉や家族同伴の温泉旅行に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じた声掛けを行っており、眠れない場合は好きなどころで休んでもらったり休息を促すように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前や日付の確認を徹底し、下剤の調整も行っている。処方箋を個人のファイルで管理し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味を生かし、裁縫や畑、食事前の挨拶や会議への参加など日課となるような役割を持っていただけるように支援しているほか、昔の話を聞くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑で野菜の間引きをしたり、花を摘んだりしている。本人の希望や気分に応じて、散歩やドライブ、買物に出かけている。	日常的にさまざまな外出の機会を設けて、散歩、買物、家庭菜園で出来る範囲で作業を行っている。車に乗って季節の花見やドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解し、家族と話し合ってホームで管理し、外出時に本人のお財布で買い物ができるように支援している。家族と相談し本人が少量のお小遣いを持つこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人目を気にせず電話ができる場所があり、家族が長期不在の場合はFAXで対応したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはウッドデッキがあり、暖かく天気の良い日は日光浴を楽しめるようになっている。絵画や写真を飾っているが生活感や季節感があまり感じられない。足音が響くことがある。	広く明るい共用空間に、絵画や事業所イベントの写真が飾られ、親しみやすい雰囲気である。組み合わせを変えられるテーブルを食事やレクリエーションなど目的別に使用している。ウッドデッキは絶好の日向ぼつこの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大小のリビングがあり、クッションや座る場所もたくさんあるため思い思いに過ごせる。ソファの位置も工夫して配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居対応時に使い慣れたものや本人が安心するもの(写真等)を持ち込んでもらっていて、心地よく過ごせるように工夫している。	仏壇を始め利用者が自宅で日々使用していた備品を持ち込み、家族の写真やお気に入りのカレンダーなどを貼って、自宅の部屋に居るような心持になるように家族とともに支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をなくし、エレベーターも利用していただいている。スロープや手すりを設置し、自立した生活を支援している。物干しざおの高さや食堂の椅子の調整を行い、安全に生活できるように支援している。		